



木枯らしの便りをきく時期になりました。12月は慌ただしく師が馳せる月ということで「師走（しわす）」と呼ばれます。大人は気ぜわしく過ごすときですが、みんなの楽しみなクリスマスもあります。風邪に負けずに楽しい思い出をたくさん作りましょう。今回は「正月事始め」のお話です。

## 「正月事始め…12月13日」

新年を迎える準備はいつごろから始めていますか？

クリスマスが終わると「さあ、次はお正月」と思う人も多いかもしれませんが、昔は12月13日を「正月事始め」としていました。この日に「すす払い」をして1年のよごれを落とし、門松にする松などを山にとりにいって準備を進めたのです。

そもそも、正月行事というのは幸福をもたらす年神様を迎える行事で、家庭にとっても重要な“幸せ行事”です。年末にむけて慌ただしくなるので、何事も早めに取り掛かり、幸せなスタートをきりたいですね。年賀状の準備や掃除などは子どものやる気を引き出すのにも効果的です。子どもの年齢に合わせた関わり方で工夫してみましょう。子どもが成長したときに年末の大きな戦力になってくれるかもしれません！もちろん、お父さんにもがんばってもらいましょう。

## 《ぞうきんのしぼり方》

ぞうきんが正しくしぼれない子が増えています。（お父さん、お母さんはしぼれますか？）正しいしぼり方は、剣道の竹刀を握るように持ち、手首を内側にしぼり込む「縦しぼり」です。日常動作に小さい頃からのくせが出るので、折に触れ教えてあげましょう。

※昔から新年には身の回りのものを新しくする習慣があります。下着などをひとつでも毎年新調するようにすると、我が家のしきたりとしてよい思い出になりますよ。

